

平成25年度再評価対象事業
(対象：平成20年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間(5年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業案)
	再評価時点 H20	本庄江 広域河川改修事業 事業主体：県 事業地：佐賀市	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 100m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=131億円 工期：S52～H30 改修延長：L=7,405m 計画流量：100m³/s 計画治水安全度：1/50 事業内容：掘削・築堤 護岸、樋管19基、橋梁10基、堰2基、水門1基	本川については、国道207号付近から上流は、橋梁1基を残し完成している。 現在、流下能力の向上を図るため、下流部の河道掘削を促進している。 また、支川新川については、H10年度完了。 国道207号の新高橋他8橋完成 (H19末進捗率 83%) (年平均進捗率 2.7%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 500戸 農地浸水面積 520ha (地域の状況) 上流域では、鍋島土地区画整理事業など、また、周辺地域においても、住宅宅地開発が行われている。	現在(B/C) 2.9		再評価実施後5年が経過	継続
	現時点 H25	本庄江 河川整備交付金事業(社会資本整備総合交付金：広域河川改修事業)			下流部の流下能力確保のため、国道207号の新高橋より下流で、河道掘削を実施。 (H24末進捗率 88%) (年平均進捗率 2.4%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 右岸側は県立病院好性館が移転し開業している。また、有明海沿岸道路と佐賀唐津道路のインターが建設予定。 一方左岸側は、住宅宅地の民間開発が確実に進んできている。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果(B/C)を算出した。 ・総便益(一般資産被害額・農作物被害額・公共土木施設等被害額等) B=82,883百万円 ・総費用額 C=29,758百万円 ・現在(B/C) 2.8	<ul style="list-style-type: none"> 再生材の積極的利用 発生残土を他事業(道路整備等)に有効利用 	再評価実施後5年が経過	平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。
	理由等	平成22年度より補助金が社会資本整備総合交付金化されたため								

